Kao

第115期 定時株主総会

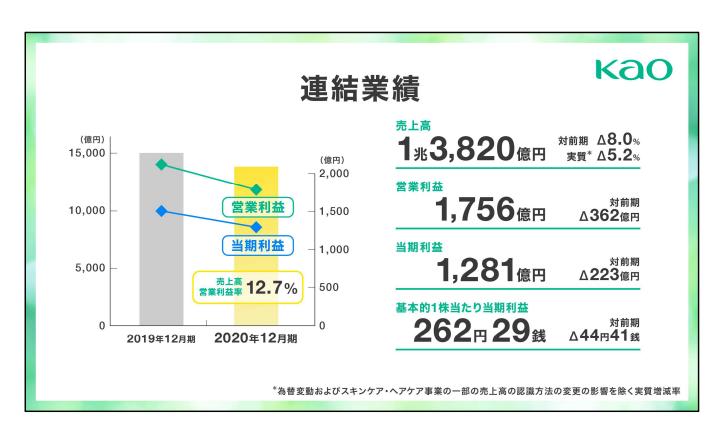
事業報告

会計財務を担当しております山内でございます。

Kao

事業の経過及びその成果

私からはすでにお配りしている招集ご通知の中の事業報告について、簡単にご報告させていただきます。

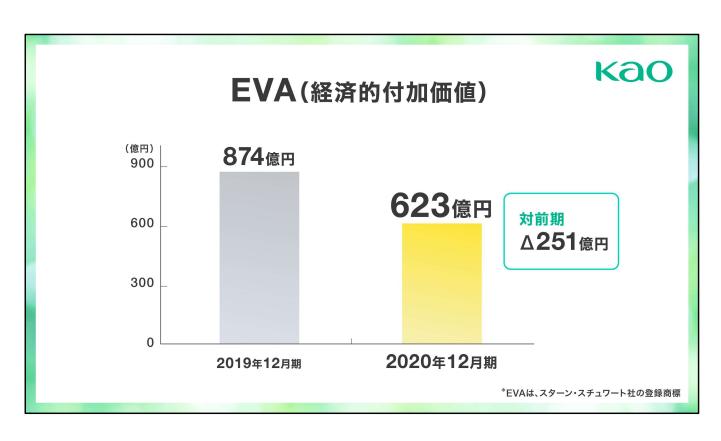


まず初めに当期の売上高は、1兆3,820億円、前年比8%減、実質5.2%の減となりました。実質とは、今期より一部の取引において売上高の認識方法を変更した影響と、 為替の影響を除いた数字になります。

営業利益は前期に対して362億円減少し1,756億円、営業利益率は12.7%となりました。

当期利益は、前期に対して223億円減の1,281億円となりました。

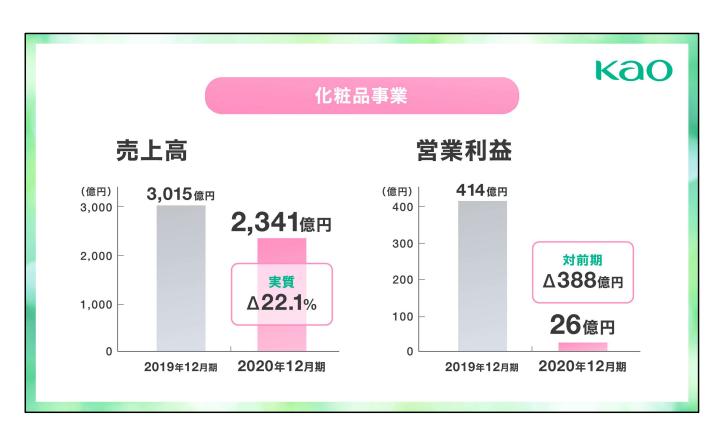
基本的1株当たり当期利益は前期より44円41銭減少し、262 円29銭でした。



経営指標としているEVA、経済的付加価値は、税引後営業利益が減少し、 251億円減の623億円となりました。

当期は、新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し、人々の暮らしや企業活動に大きな影響をもたらした1年となりました。このような厳しい状況の中、花王グループは、全社の力を結集し、世界の人々の安全・安心に貢献できるよう、さまざまな製品・サービスや情報の提供に努めて参りました。

次に、事業別の概況をご説明いたします。



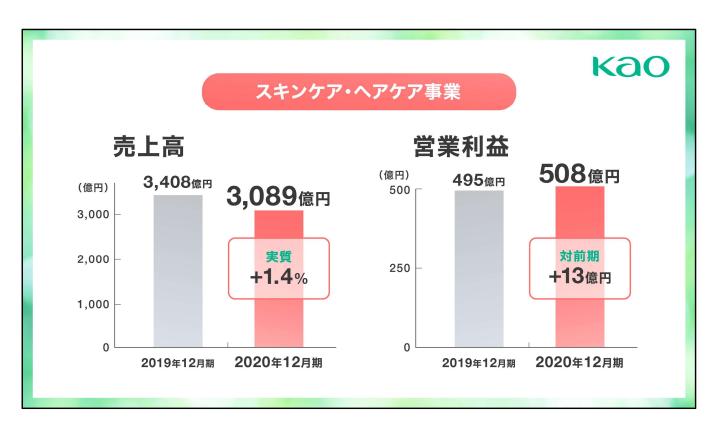
まず初めに化粧品事業ですが、売上高は前期に対して実質22.1%減の2,341億円となりました。営業利益は、日本の大幅な減収により、388億円減の26億円となりました。

日本ではインバウンド需要の減少に加え、外出自粛や小売店の臨時休業が行われた 影響を受けました。人々の化粧をする機会が減り、メイク品の比率が高い花王は、特に 大きな影響を受けました。また、欧州では、ロックダウンによる店舗閉鎖の影響を受けまし たが、Eコマース比率の高いモルトンブラウンは比較的健闘しました。



一方、花王中国ではEコマースへの取り組みを強化しており、「フリープラス」、「キュレル」を中心に売り上げは20%以上伸長しました。

引き続きEコマースを強化するとともに、伸長する中国事業に注力しながら、日本での構造改革を進めます。

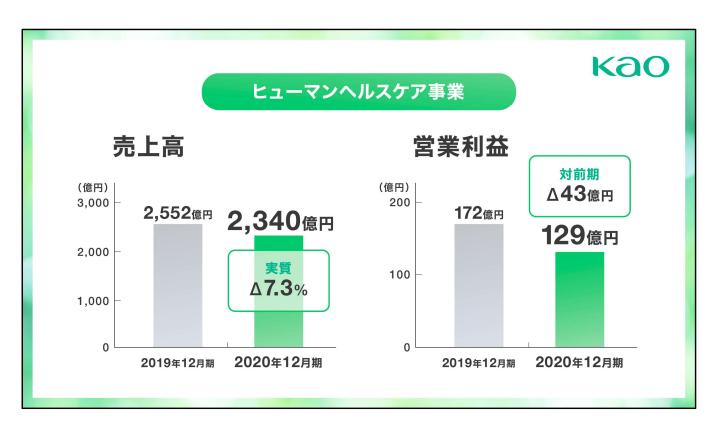


次にスキンケア・ヘアケア事業では、売上高は、3,089億円、実質1.4%増となりました。 営業利益は、対前期13億円増加し、508億円となりました。



スキンケア製品は、新型コロナウイルス感染症拡大により「ビオレu 泡ハンドソープ」や 手指消毒液等の衛生関連製品の需要が増え、日本で迅速な増産・供給体制を確立 して、売り上げを大きく伸ばしました。一方、天候不順や外出自粛の影響で、UVケア製 品や汗拭き用のシートなどは低調でした。

ヘアケア製品は、欧米のヘアサロン向け事業が取引先の店舗閉鎖の影響を受けたことにより、売り上げは前期を下回りました。



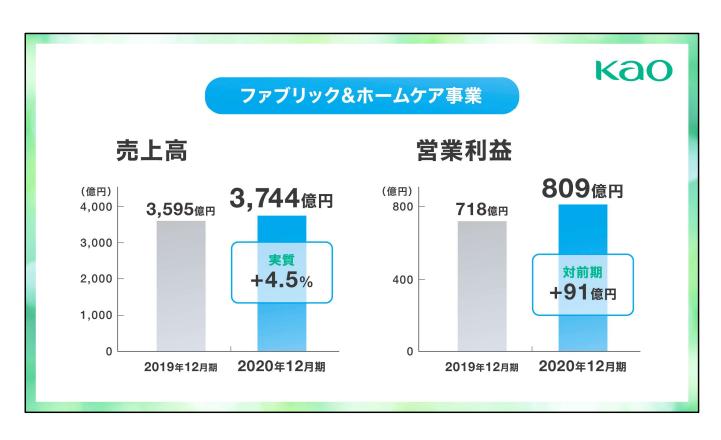
続いてヒューマンヘルスケア事業全体の売上高は、2,340億円、実質7.3%減少しました。営業利益は、前期に比べて43億円減少し129億円となりました。



生理用品「ロリエ」は、日本では買いだめやその反動で市場が変動する中、売り上げは ほぼ横ばいで推移しました。アジアでは、花王中国でEコマースへの取り組みが順調に推 移し、売り上げは大きく伸長しました。

「メリーズ」の売り上げはインドネシアでは順調に推移しましたが、日本や中国は前期を下回りました。

パーソナルヘルス製品の売り上げは、入浴剤は巣ごもり需要等によって順調に推移しましたが、オーラルケア製品は厳しい競争により前期を下回りました。



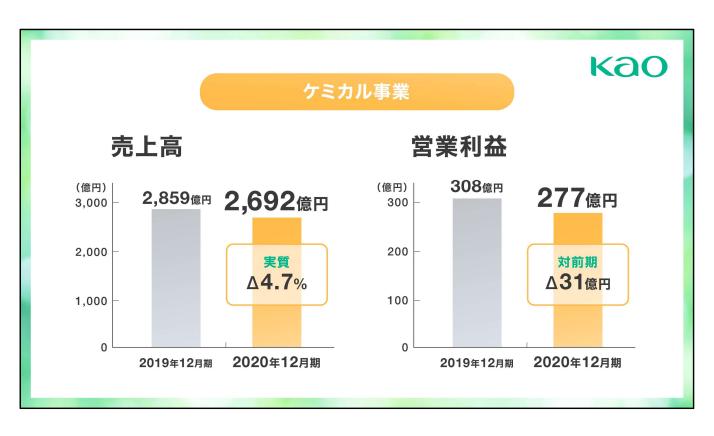
続きまして、ファブリック&ホームケア事業全体の売上高は、3,744億円、実質4.5%の増加となりました。営業利益は、前期に対して91億円増の809億円となりました。



ファブリックケア製品は、衣料用洗剤では「アタック ZERO」の改良や、新製品「アタック 3 X」の発売により売り上げとシェアは前期に比べて伸長しました。



ホームケア製品は、新型コロナウイルス感染症によって衛生関連製品の需要が拡大する中、除菌、ウイルス対策の訴求を強化すること等で、売り上げは大きく伸長しました。また業務用製品では、手指消毒液の増産体制を大幅に強化し、医療機関、介護施設等、衛生管理が特に必要な現場に供給し、売り上げを伸ばしました。



最後に、ケミカル事業全体の売上高は、2,692億円、実質4.7%減となりました。 営業利益は、前期に対して31億円減少し277億円となりました。



ケミカル事業



油脂製品 (高級アルコール)



機能材料製品(道路用薬剤)



スペシャルティケミカルズ製品 (水性インクジェット用顔料インク)

油脂製品では、需要減の動きがある中でも、殺菌や洗浄用途の油脂誘導体製品は 堅調に推移しました。機能材料製品やスペシャルティケミカルズ製品では、需要減の 影響を受けました。

以上が事業別の概況ですが、全事業総じて申し上げますと、当期は前期とは逆に 化粧品が大幅に落ち込み、それをハンドソープや手指消毒液、ホームケア製品などの 衛生関連製品でカバーしましたが、残念ながら前年の売上・利益には及ばず、という 結果となりました。



以上、花王グループの事業報告の概略についてご報告申し上げました。

なお、連結計算書類及び計算書類につきましては、お手元の招集ご通知62ページ以降をご覧いただくようお願い申し上げます。